

R4年度 教育水準向上支援事業 実施報告書

ひなぎく幼稚園

(1) 年長英語活動

ネイティブの英語講師を週1回招き、年長組各クラスにて英語の時間を持つ。英語の歌やゲームを通して、英語を楽しんで用い海外の文化に触れる機会を設ける。年度末には保護者を招き、ともに英語で楽しむことを計画している。

<実施効果> (年間計32回を予定) →年間計30回実施

・英語の歌やゲームを通して、英語を楽しんで用い海外の文化に触れる。

【2023.2月のおたより】抜粋

2. 保育参観・父母会 日時について

今年度最後の保育参観の日時をお知らせします。お子様のクラスの日時を確認の上、ご来園下さい。新型コロナウイルス感染予防のため、保護者の参観は各家庭1名まででお願いします。尚、今後の新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては予定を変更する場合があります。

| | | |
|---|--|--|
| つぼみ : 2月7日(火) 9:35~10:50 | うさぎ : 2月8日(水) 9:45~11:00 | ひよこ : 2月9日(木) 9:45~11:00 |
| たんぼぼ : 3月2日(木) 10:00~11:30 | すみれ : 3月3日(金) 10:00~11:30 | |
| ひかり : 2月17日(金) 9:50~11:20 <英語参観> 3月8日(水) 9:20~10:00 | のぞみ : 2月21日(火) 9:50~11:20 <英語参観> 3月8日(水) 10:10~10:50 | みのり : 2月24日(金) 9:50~11:20 <英語参観> 3月8日(水) 11:00~11:40 |

※英語参観はクラス毎に、ホールで行います。開始時間5分前にはホール前にお集まりください。

【2023.3.8 英語参観の様子】抜粋



(2) 年長大工活動

年長組は長年、のこぎり・げんのうを使い大工活動を行ってきた。昨年度からは電動のこぎりも新たに整備した。今年度は、担当する職員が木工インストラクターの資格を取得したり、書籍を読み合ったりする中で、より多彩で本物の材料と道具を用いた大工活動を展開している。

<実施効果>

- ・本物の材料と道具を用いた大工活動を通じて、創造性豊かに表現することを経験する。

【2022.10 入園説明会資料】抜粋



【2022.5 年長組クラスだより】抜粋

「初めての大工」

年長組になると大工室で本格的な大工遊びを行えます。まずは、大工室の使い方や鍵の打ち方をしっかりと教えていただき、いざ！チャレンジ！始めは上手くいかないものの、少しずつコツを掴み、上手に釘を打ち込んでいました。

保護者の皆様、ぜひ子ども達にカナヅチの本当の名前を聞いてみてください！子ども達はカナヅチとは言いませんよ！職人さんが言うように、「げんのう」と言うのです。大工遊びはいつも人気で、「今日、大工できる？」「げんのう持ってこなきゃ！」など小さな大工職人が日々、思い思いの大工をしています。



【2022 年度 研修会出席報告書】 抜粋

・木育が目指すものとして心を育てる、ということがある。自然に対する愛着や感謝の気持ちはもちろん、人とのつながりを大切にできることや、自分の考えを持った人を育てることが挙げられている。(中略) 話し合うことで、木に興味を持ち、自分の考えを話、仲間の意見にも共感しつつつながりを感じられ、木育が目指すことを達成できたことを実感できた。(中略) 今までは何となくこの木をつかって、というように、木を感じることはできていなかったが、これからは使う木をたくさん触って、木を感じながら大工の遊びも楽しめるようにしたいと感じた。

・「保育者として本物の体験をさせてあげたい」ということである。既成のものではなく、子ども達の持つ五感を使って、神様が造られたこの世界にある本物を体験させてあげたい。木育は木を主に扱う。木一つとっても本当に奥行きが深く、さまざまな種類による性質の違いや加工の仕方による味の良さなどである。手を使い木工すると木屑が出て、手触りがサラサラしたり、木の香りがしたり……。それは本物の木を使わなければ体験できない。そうした原体験をたくさんさせてあげたいと思った。また大人が大切にしていることを子ども達は感じてくれると信じたい。木を大切にする保育者の姿を見て、木を大切に
する保育者の姿を見て、木や自然を愛する人になってほしいと思う。

年長組になると大工室で様々な大工遊びが行える。木育講座を受けていても、ひなぎくの大工室の充実度を改めて感じた。一方で、木(木材)に触れる機会がいきなり過ぎるようにもこの講座を受けて感じた。木育の基本は五感で感じることである。(略) まずは木に触れてみる、匂いを嗅ぐ、音を鳴らす、木目など違いをみるなど3歳児、4歳児から行うのも良いのではないだろうか？

最後に、福島氏は、木育は特別ではなくいかに日常に取り込むことが大切とおっしゃった。木育とはいただきます・ごちそうさま、ありがとう・どういたしましてなど当たり前を当たり前にする心の共有であるという。「木育」という言葉に私たち保育者は身構えがちだが、まずは保育者として子ども達をどう育てたいかを改めて捉え直し、目に見えないものを見ようとする力を養っていききたい。

【2023.3 年長組クラスだより】 抜粋～卒園製作、粘土版画～

卒園に向けて・大工・ひもかけ・あみものの3つから選び、卒園製作を行いました。

大工の人たちは椅子やテーブルなど本当に座ったり食べたりできる物を作りました。自分で作った大工でお弁当をいただいたり、絵本を読む姿はかわいらしかったですよ。

ひもかけは大工の釘で形を作り、紐を順番にかけていきました。雪だるまや星、十字架を作り上げた人がいました。紐をかけるのが意外にも難しく、解けてははじめからになるなど苦戦している人もいましたが、素敵な物が出来上がったと思います。



(3) わらべうた

クラス活動の時間や帰りの会などに、子どもの発達段階や季節に応じたわらべうたを楽しんでいる。教師が子ども達を導けるように、夏季研修に参加し参考書籍を読む、わらべうたの専門性の高い教師の活動に参加することなどを通して専門性の向上に努めている。

<実施効果>

- ・楽しい雰囲気の中で、粗大運動・微細運動の経験をし、拍を感じて仲間と一緒に楽しむことを経験する。

【2022.5 年少組クラスだより】抜粋

礼拝の後にはリズム、わらべうた、楽器、表現、ゲームなどの活動をしています。様々な経験を通して、子どもたちが自分を表現できるようになっていけたら嬉しいです。(略)

「きゃあろのめだま」のわらべうたも大好きです。体の使い方が上手になると高く飛べて子どもたちも楽しいです！ぜひご家庭でもやってみてくださいね♪



【2022.9 年中組クラスだより】抜粋

月に2回柴崎先生と一緒にわらべうたを楽しんでいます。拍を感じながら歩いたり、唱歌・ルール性のあるものにも触れています。

♪どてかぼちゃというわらべうたでは、3組になって遊びました。外側の2人が鍋になり、真ん中の人がかぼちゃになります。一曲歌い終わると、真ん中のかぼちゃは隣の鍋へとお引越しをします。このわらべうたのでは、グループを作ることに苦手意識を持っている人が多いすみれ組の子どもたちが、教師の支えがなくても自分で3人組を作り楽しむことができたという背景がありました。今後も、【友達と一緒に楽しめた！】の経験を積み重ねていってほしいです。



【2022年度 研修会出席報告書】抜粋

・わらべうたの基礎を知らずに今まで実践してきましたが、この度の研修を通してその基礎となることを学ぶことができたのはとても有意義でした。(中略)

まずは自分のものにできるように繰り返し歌い、とにかく実践してみて、子ども達の反応の中から学ぶということが大切だと思いました。今回そのきっかけをいただき、繰り返し歌うことで実践できるうたも数曲できたので、この研修を活かして実践を積み重ねていきたいと思います。改めてこの研修会を通じて、わらべうたのすばらしさを肌で感じ、これを子ども達に返し、共に遊び、楽しむ経験をたくさんしたいと思いました。

【2023.3年長組クラスだより】抜粋 <大好きなわらべ歌>

わらべうた「そーろった」が大好きな子どもたち。冬休み前から遊んでいましたが、6~7人で足をかけるのは難しく、回れても1回・・・ですが、コツコツと時間がある時にやり続け終園日直前には、どのグループも5回~10回は続けられるまで成長しました！子どもたちも大喜びでした。



(4) 劇遊び

絵本や教師が語るお話、詩から豊かな言葉の世界を味わい、想像力をふくらませて、友達と劇遊びを楽しんでいる。教師は専門性向上のため、研修に参加するなど、豊かな実践に触れる機会を重視している。

<実施効果>

- ・絵本や教師が語るお話、詩から豊かな言葉の世界を味わい、教師の導きのもと、園児は想像力をふくらませて、仲間と一緒に楽しむことを経験する。

【2022.10 入園説明会資料】抜粋



【2022.10 年中組クラスだより】抜粋

～みんな大好き！てのりにんじゃ～

絵本『てのりにんじゃ(ひさかたチャイルド)』を読むと、最後のページに「ポストのなかにいるでござる」のメッセージが...「朝見たときは何も入ってなかったよ!」「本当にいるの...?」すると、ポストの口からてのりにんじゃが覗いてるではありませんか!絵本に書かれたてのりにんじゃと仲良くなる方法の通り、まずは大好物の団子を作ってそっと置きます。それを食べるとてのりにんじゃと一緒に修行をして欲しいと話すと子どもたちは絵本の世界に飛び込んだように表現遊びを楽しみました。(略)

運動会が終わっても、大好きな忍者を通して友達との繋がりもまだまだ広がっています。



【2022 年度 研修会出席報告書】抜粋

- ・子ども達の遊ぶごっこ、まねごとの世界はまず最初の入り口。架空の世界や空間を介して仲間と共有して遊んでいく。その中で行き違いや、設定の違い当によって子ども達は本気の衝突を繰り返していくこともある。その本気で遊ぶ経験こそが本気で生きることに繋がっていく。幼児期に育ってほしい姿、土台に繋がっていくことの大切さを感じた。
- ・劇遊びには子ども達の生きていく上で欠かせない様々な力を育む効果があることを再確認しました。仲間と一緒にもっと楽しい！それに気づかせてくれるのが劇遊びだと思います。繋がってともに力を出し合い認め合える関係性を作れるように、子ども達の様々な形で表出される思いや考えを保育者が受け取って活動に取り入れ、本気で夢中になって遊び込む経験を保育者自身も楽しみたいです。

年長組になって、おはなしあそびをする時間が少なくなっているが、隙間時間を見つけて、どんどん取り入れ、子ども達のやりたい！という気持ちを引き出せるよう積み重ねていきたい。

【幼稚園 HP（年長組保育参観）】抜粋

2月の後半には、年長組の保育参観がありました。今年是对面での保育参観で、保護者の方に見て頂くと張り切っていた年長組。それぞれ、お気に入りの絵本をテーマに、これまで保育の中で楽しんできた遊びや活動を盛り込んで、一つの劇あそびにして見て頂きました。このクラスは『つんつくせんせいといたずらぶんぶん』（フレーベル館）のお話を楽しみました。いたずらぶんぶんが子どもたちの体に入り込み、へんてこな体操（ベルマークの形に変身！）をしている様子です。



【幼稚園 HP（年中組保育参観）】抜粋

このクラスは「チリとチリリ～ゆきのひのおはなし～」(アリス館)をテーマにしました。手作りのハンドルを手に、雪の降っている世界に出かけていきます。



【幼稚園 HP（年少組保育参観）】抜粋

年少組の保育参観では、それぞれの保育室で表現遊びを楽しんでいる子どもたちの様子を保護者の方に見て頂きました。こちらのクラスは絵本『さんびきのこぶた』(福音館書店)のお話の中で、こぶたたち(子どもたち)がわらを運んだり、木になって切ってみたり。そして、子どもたちは相談し、熱いお風呂の中におおかみ(教師)を入れて、追いつことに大成功!!

